

公表

事業所における自己評価結果

事業所名 放課後デイサービスいっぽいっぽ宮下

公表日 2025年 3月14日

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	9	0	標準の放課後デイより広いスペースを確保している。	開所から8年度目を迎えて子供たちが驚くほど成長し、以前より狭く感じるといふのはあるかもしれないため外遊びや外出の機会を意識して増やすなど工夫を行う。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	9	0	法令で定められた職員2名に加え2名追加配置し、さらに運転手も配置している。	法に則った配置はされているが、どのような方も断らない支援を実践している点から、より手厚い人員配置があればという意見もでた。可能な配置を最大に行った上で、多機能事業所のメリットを生かして、児童発達支援など他部門と助け合いながらより質の高い支援が提供できる環境となるようにしていく。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	9	0	バリアフリーの環境で、わかりやすく構造化し、情報伝達等にも配慮している。	環境面の様子がより伝わりやすくする工夫としてHPの保護ページに写真をアップする工夫を行っている。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	9	0	日々の清掃、大掃除等業務分担して実施している。室内の机は活動にあわせてレイアウトを変更している。	継続してしっかりと行っていく。
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9	0	隣接したクールダウンスペースがあり、有効に活用できている。	成長に伴い違うタイプのクールダウンスペースが必要となる可能性がある。その場合、別スペースの候補も用意してあり適宜検討していく。
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	9	0	会議の日時を固定しない工夫でより広く職員が参画できるようにしている。	継続してしっかりと行っていく。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	0	保護者向け評価表の結果は全職員に周知し、会議の議題にあげ業務改善につなげている。	継続してしっかりと行っていく。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	0	業務前後のミーティング、定期的な会議だけでなくラインワークスを活用し意見を把握する機会を設け、業務改善につなげている。	継続してしっかりと行っていく。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	9	第三者による外部評価は実施していない。小さな法人では費用面の負担が大きすぎ、導入が難しい。	費用の負担が難しいこと、義務化されていないことから、ただちに実施することは難しいが、このような自己評価の機会に省みることでより良い支援につなげていく。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9	0	法人内外の研修を受ける機会がある。外部の研修費補助制度もある。外部講師を招聘し全職員で応用行動分析を学ぶ機会も設けた。	継続してしっかりと行っていく。
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9	0	法改正により年度末までの公表が義務化された。適切に公表している。	継続してしっかりと行っていく。
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	9	0	業務前後のミーティング、会議にてアセスメントを適切に行い、ニーズや課題を分析し、計画を作成している。	おうちの方が求める療育とはベターな療育ではなく、今現在のお子様に対するベストの療育を求められている。そのことを忘れず、研修や振り返りを通し、常に専門性を高める努力を継続していく。
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9	0	業務前後のミーティング、会議にて話を積み重ね、こどもの支援にかかわる職員が共通理解の下でよりよい療育となるよう検討を行っている。	継続してしっかりと行っていく。
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9	0	計画は職員間で教諭しており、計画に沿った支援に努めている。もれがないかの確認は日々のミーティングや会議を通して行っている。	ラインワークスにて共有しているが、画面が小さい場合読みにくいので、印刷してキャビネットに保管し紙面でも確認できるようにしている。
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9	0	子供たちの状況は各種発達検査の記録だけでなく、日々の行動観察を紙面やラインワークスを用いて記録し情報共有している。	継続してしっかりと行っていく。
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9	0	計画には、「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目を適切に設定し、具体的な支援内容を設定し記載している。	継続してしっかりと行っていく。
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9	0	チームで相談し、行っている。	継続してしっかりと行っていく。
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9	0	子供たちは成長とともに興味やパワーが常に変化しているため、子供たちとの話あいも行いながら、工夫した過ごし方を常に模索している。各職員の強みを生かしたプログラムも実施している。	継続してしっかりと行っていく。
	19 こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	9	0	計画の通り、専門的支援を含めた個別支援と集団活動を適切に実施している。	継続してしっかりと行っていく。

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9	0	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っている。	継続してしっかりと行っていく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	9	0	支援終了後には、職員間で必ず打合せ・支援の振り返りを行い、気付いた点等を紙面による記録やラインワークスにより共有している。	継続してしっかりと行っていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9	0	日々の支援に関して記録をとることを徹底している。この記録は会議や計画を作る際に一定期間ごとに読み返し、支援の検証・改善につなげている。	継続してしっかりと行っていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9	0	会議の際に利用者のモニタリングを行い、計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っている。	継続してしっかりと行っていく。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	9	0	「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っている。	継続してしっかりと行っていく。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	9	0	年齢にあわせ、こどもが自己選択できる支援、自己決定をする力を育てるための支援を行っている。失敗してもいいという前提でどこまで助けずに見守るか事前におうちの方と相談して決めているケースもある。	継続してしっかりと行っていく。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9	0	関係機関との会議には、基本的に児童発達支援管理責任者が参画している。配置が許せば、そのこどもの状況をよく理解した職員もあわせて参画している。	継続してしっかりと行っていく。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9	0	必要時は適切に医療、教育委員会、他事業所、行政と連携している。	継続してしっかりと行っていく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	9	0	学校との情報共有は適切に行っている。長期休暇期間を利用し会議を開催しているケースもある。	継続してしっかりと行っていく。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	9	0	同一法人のメリットを生かし、法人内から入所する方は前後での情報共有等しっかりと連携している。	継続してしっかりと行っていく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	9	0	昨年度まで卒業される方がいなかったが引越される方について情報連携はしっかりと行った。	情報連携は重要でありしっかりと行っていく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	9	0	必要なケースの場合、子ども家庭センター、行政としっかりと連携し助言をうけ支援を実践した。	継続してしっかりと行っていく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	0	9	児童館との交流は実施できていない。強度行動障害の方にとっては交流の難易度が高いという問題がある。激しい自傷につながる可能性が高く、メリットよりデメリットが大きいという問題がある。また、個人情報の観点から希望されない保護者の方がいらっしゃる。	幅広い重症度の利用者の方を受け入れていることが、利用しているこどもたち同士のインクルージョンの学びにつながっている。空きがある限り断らない支援を継続していく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	9	0	協議会の会議には法人の担当者が参画している。イベントの際は複数職員がボランティアとしてサポート活動も行っている。	継続してしっかりと行っていく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9	0	連絡帳・お手紙・お電話・面談等で何ったご相談に対し、必要なアドバイスを電話・お手紙・お帳面等で返事させていただき、必要時には学校の先生とも連携している。	継続してしっかりと行っていく。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	9	0	様々な特性をもつお子様が利用して下さっているため、特性に対する内容については集団よりも個別でオーダーメイドのペアレントトレーニングを提供させていただいている。	ささいな事でも気軽に相談していただける関係を築きより効果的なペアレントトレーニングを提供できる事業所となるよう継続して努めていく。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9	0	契約の際に丁寧に丁寧な説明をこころがけている。法改正の際は紙面にて変更事項を説明させていただいている。	今後もより丁寧な説明に努めていく。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9	0	おうちのかたのニーズとのずれはないか等、普段のご相談や面談などの機会にしっかりと分析し、よりよい計画・支援となるよう努めている。	継続してしっかりと行っていく。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	9	0	適切な期間ごとに計画の同意を得ている。内容について変更の希望がある場合は今一度しっかりと話あい迅速に対応させていただいている。	継続してしっかりと行っていく。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9	0	連絡帳・お手紙・お電話・面談等で何ったご相談に対し、必要なアドバイスを電話・お手紙・お帳面等で返事させていただき、必要時には学校の先生とも連携している。	継続してしっかりと行っていく。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	9	0	月に1回のひのびカフェという茶話会を開催し保護者同士の連携支援を行っている。神戸市ヤングケアラー担当者や連携し、きょうだい同士で交流する会につなげたケースもあった。	継続してしっかりと行っていく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9	0	対応の体制を整備し重要事項説明書の書面とあわせて説明を行っている。苦情があった場合は迅速かつ適切な対応をこころがけている。	継続してしっかりと行っていく。

	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	9	0	毎回HP連絡帳を通して保護者様への情報提供を行っている。必要時には個別のお手紙や電話連絡等により詳細な情報の共有を行っている。義務付けられている自己評価結果の公表をHPにて行っている。	継続してしっかりと行っていく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9	0	個人情報が記載された書類は鍵付きキャビネットに保管している。使用しているウェブカメラについては兵庫県警からの通達に基づいた専門業者による安全対策を行うなど適切に対応している。	継続してしっかりと行っていく。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9	0	わかりやすく構造化し、情報伝達等にも配慮している。	継続してしっかりと行っていく。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	0	9	地域のかたを招待する等は実施できていない。強度行動障害の方にとっては交流の難易度が高いという問題があり、激しい自傷につながる可能性が高く、メリットよりデメリットが大きいという問題がある。また、個人情報の観点から希望されない保護者の方もいらっしゃる。	お出かけの際や公園にてすれちがったかたにはちょうどよい挨拶するということを子供たちに学んでもらっている。地域で生活するうえのマナーを守り、ちょうどよい挨拶ができることをめざしている。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9	0	マニュアルを策定し研修を行い職員に周知している。保護者様には契約時に説明とあわせてマニュアルをお渡ししている。	継続してしっかりと行っていく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9	0	BCPを策定し、非常災害の初動体制について職員に周知している。定期的な訓練も実施している。	継続してしっかりと行っていく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	9	0	必要な情報を契約時に確認し、職員に周知している。エビペンの対応について練習用キットで練習を実施し、使用方法について忘れないように職員がよく目にする場所に常に掲示している。	継続してしっかりと行っていく。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	9	0	医師の指示についておうちのかたから情報をいただき職員に周知している。こちらで提供する場合は保護者に必ず確認をとるようにしている。	継続してしっかりと行っていく。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9	0	計画を作成し研修や訓練を行った上で支援を行っている。感染症予防については訓練の成果が発揮された。	継続してしっかりと行っていく。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	9	0	災害時等のマニュアルは書面にておうちの方にお渡し周知している。	継続してしっかりと行っていく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9	0	ヒヤリハットはラインワークスを使用し事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしている。	継続してしっかりと行っていく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9	0	研修の機会を確保し、適切に対応している。	継続してしっかりと行っていく。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	9	0	法人の身体拘束適正化委員会を定例だけでなく必要時は臨時で開催し、対応について組織的に決定している。事前の説明と了解を得たうえで計画に記載している。	継続してしっかりと行っていく。